



## 第22回身近な水環境の全国一斉調査結果概要

発行日 2025年12月6日

編集 全国水環境マップ実行委員会事務局

発行 全国水環境マップ実行委員会

発行所 全国水環境マップ実行委員会事務局

問合せ先 全国水環境マップ実行委員会

事務局 みずとみどり研究会賛付(申込・問合せ)

〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202

TEL/FAX : 042-327-3169

E-mail : mizutomidoriken@ybb.ne.jp

URL https://www.japan-mizumap.org/

2026年2月移転予定 (郵便物は1年転送されます)

東京都小金井市貫井南町4-1-7 友好荘205

発行部数 4,000部



本調査は公益財団法人河川財団の河川基金  
の助成を受けて実施しています。

後援 国土交通省 環境省

第22回 2025

# 身近な水環境の 全国一斉調査

●笑顔でつなぐゆたかな水辺●

## 第22回 調査結果概要

# 2025

### 目次

I 調査の背景	P.1
II 調査の実施手法	P.2
III 調査結果の概要	P.3
全国一斉調査諸データの推移	P.4
2025 全国水環境マップ 第22回 身近な水環境の全国一斉調査結果	P.5
2004 全国水環境マップ 第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果	P.6
IV 各ブロックでの調査結果	P.7
北海道地方 P.7	近畿地方 P.12
東北地方 P.8	中国地方 P.13
関東地方 P.9	四国地方 P.14
北陸地方 P.10	九州・沖縄地方 P.15
中部地方 P.11	
V 使ったパックテスト、どう捨てる?	P.16
VI 繼続調査参加団体	P.19
VII 全国水環境マップ実行委員会名簿	P.20
VIII 身近な水環境を調べよう! 第22回「身近な水環境の全国一斉調査」参加のお誘い	P.21
第23回 身近な水環境の全国一斉調査 参加申し込み用紙	P.22

※「身近な水環境の全国一斉調査」は、毎年6月に統一調査日を設け、2004年から市民団体と河川管理者が連携して、全国の河川や湖沼など身近な水環境の水質を調査しています。

本誌は、その結果をマップとしてまとめ、参加者のみなさんのご意見も掲載しました。

調査器材は(株)共立理化学研究所から提供を受けています。

全国水環境マップ実行委員会

印刷 エキノックス



# I 調査の背景

市民や学校の子どもたちによる身近な川の一斉調査は1980年代の半ばから、多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきました。しかし、調査の方法や項目などは必ずしも統一されておらず、水質の測定精度も十分に保証されていませんでした。このような多くの市民調査の結果を有効に利用するためには統一的な調査マニュアルを作成し、測定精度の管理システムと全国各地の結果を比較できるデータベースを確立することが重要です。

多くの市民や学校の子どもたちが統一的な調査マニュアルにもとづき、身近な水環境を全国一斉で調査し、その結果をわかりやすいマップで表現することにより、全国の状況が一目でわかり、身の回りの環境に関する市民の理解と関心がさらに深まることが期待されます。

## 【身近な水環境の全国一斉調査のはじまりと10年間のまとめが一冊の本になっています。】

調査を実施するようになった社会的背景からどのようにして全国一斉調査がはじまったのか。そして、どのように全国に広まったのか。これまでのデータのまとめも含めて身近な水環境の全国一斉調査が一冊の本になっています。身近な水環境の全国一斉調査10年の歩みがわかる「見る 知る 調べる水」(全国環境研会誌事務局、2015)は全国水環境マップ実行委員会事務局から定価1,500円(税込) 送料別で販売中です。

「身近な水環境の全国一斉調査」は2004年6月に開始され、22年間で延べ140,726人を超える市民や学校の子どもたちが参加し、全国の調査した水辺の延べ数はおよそ119,433地点です。今後もこの調査を継続することで、水環境の保全に関する市民の意識が高まり、さらに多くの地点で調査が実施されることを期待されます。

## 目的と意義 ~自分たちで調べて、環境保全につなげよう~

1. 身近な水環境を簡単な方法を用い自ら調査することにより、その実態を知ることができる。
2. 統一的なマニュアルに基づき調査を行うことにより、調査結果を相互に比較する際の精度が向上する。
3. 身近な水環境の調査結果をすぐに知ることができる（行政による水質調査結果の公表はおよそ1年後である）。
- また、全国の結果も速報値として数か月後に知ることができる。
4. 河川などの流域で、多くの人たちが調査に参加することにより、面的につながりのある結果が得られる。
5. 同一条件で調査した身近な水環境と他の地点の結果を比較することにより、身近な水環境の状態を評価できる。
6. 身近な水環境を流域、さらに広域の環境へ結びつけ、水環境の保全を考えるきっかけとなる。
7. 水の汚れの原因を調べ、考えるきっかけとなる。
8. 汚れの原因が明らかになれば、水環境を保全・修復するために、身近にできる実践活動に結びつけることができる。
9. 調査に参加した多くの人たちと連携の意識をもつことができる。
10. 子どもたちが調査に参加することにより、100年の眼で将来に活動を引き継ぐことができる。



# II 調査の実施手法

## 調査の概要

調査日：2025年6月8日(日)を中心に実施  
調査者：『全国水環境マップ実行委員会』のもと、河川の水質に関心のある市民団体や学校などが参加。  
調査内容・方法：調査マニュアルに基づき、気温、水温のほか、パックテストでCODを測定。

## 調査項目

### ●気温・水温・試水水温

一斉調査の調査票には、現地の気温・水温・試水水温と3種類の記入欄があります。現地の気温と水温を記入することで、同一日に行なった各地の気温と水温の分布を全国規模で把握することができます。また、パックテストでCODを測定するためには試水水温が重要な要素であり、試水水温を測定することでパックテストの反応時間を把握して、より正確な測定を実施することができます。

### ●COD(化学的酸素要求量)

COD(Chemical Oxygen Demandの略称)は試水中にどのくらい酸化される物質、主として有機物があるかを示すもので、水中の有機物量の目安となります。河川水の一般的なCODの値は、きれいな水で1~2mg/L程度ですが、水が汚れるにつれて値が大きくなります。今回の調査も同一のロット番号(製造番号)のパックテストを用いて、同一試料を3回測定し、その中央値を採用することでより正確な測定値を得ることができます。

※パックテストは、株式会社共立理化学研究所の登録商標です。

## 調査の手法

### ●採水およびCODの測定

詳しい採水方法、測定方法は下の二次元コードよりご覧いただけます



ハンディマニュアル\_採水



ハンディマニュアル\_測定

**ブンセキを  
もっと  
身近にする**

常に時代に最適な技術をもって  
世界中の誰でも気軽に  
水質分析ができる手段を提供し  
「ブンセキ」という文化として浸透させる事で  
理想的な社会創造に貢献します

発色させたパックテストを  
iPhone®で撮影し  
判定結果を数値化する  
パックテスト専用アプリ

今すぐ  
ダウンロード

**SMART PACK TEST®**

**水質の簡易分析製品  
パックテスト®**

型式:ZAK-COD(D)-2 型式:AZ-RW-3  
パックテスト少量10回分 解説付・環境教育/自由研究に  
型式:DO-30  
溶存酸素を手軽に測定・30回分入り  
水質検査/水草の光合成の実験などに  
New

株式会社 共立理化学研究所  
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.  
<https://kyoritsu-lab.co.jp>  
TEL:045-482-6937  
神奈川県横浜市緑区白山1-18-2 ジャーマンインダストリーパーク

# 調査結果の概要

調べてわかる 身近な水辺

## 気温や水温にも着目

今年の一斉調査日は全国的には西日本で曇りや雨の地域が多く、関東より東側では曇りといった天気でした。ただ、6月の平均気温は全国的にも高かったようですが本誌をまとめている9月になっても暑い日が続いていました。

本調査では水質CODデータのほかに気温や水温のデータも合わせてとっています。北から南に長い日本では全国の温度データを横並びに比較しても年ごと、地域ごとの調査地点数が異なっておりなかなか比較が難しいですが皆さまがお住いの地域ごとや流域ごとで定点としている地点の温度変化についても整理してみてはいかがでしょうか。

**全国統一日**  
調査日 2025年6月8日(日)  
参加団体数 281団体(個人参加含む)  
調査地点数 1,461地点

**調査総数(全国)**  
期間 2025年5月15日～7月13日まで  
参加団体数 579団体  
地点総数 4,612地点

**調査地点(海外)** 台湾 3地点

記念シンポジウムの  
YouTubeはこちらから



## 調査のまとめ

CODの結果としては、0～3mg/L未満の地点は全体の約34%、3～6mg/L未満は約46%、6mg/L以上は約20%となりました。なお、渇水等で採水できなかった地点は33地点でした。本誌が発行される12月にはホームページに詳細なデータも公開します。ぜひご活用ください。

市民団体、学校関係、企業や行政関係者など調査に参加いただいているが、様々な事情により年々参加者数が減少してきています。新たな取り組みとしてSNSでの発信も行っていますが、X(旧twitter)も今年5月からログインできなくなっています。情報発信がとされています。フォローしてくださった皆さん、申し訳ありません。そのような状況ですが全国47都道府県での調査を行うことができ参加団体数などは上記の通りです。

## 【ご寄付のお願い】

本調査は現在、河川財団の河川基金の助成金のみで運営しています。  
調査器材をメーカーの共立理化学研究所のご厚意で無償提供していただいているものの、年々値上げする郵送費やデータ集計のための入件費などの工面が大変になっています。  
実行委員会でも様々な提案をして対応していますが未だ成果にはつながっていません。  
そこで、皆さまに本調査にご支援いただきたく、下記の振込口座に寄付くださるようお願いいたします。

ご寄付いただく皆さまへ  
郵便局備付けの用紙で振込みをしていただく場合、お手数ですが「寄付」又は「一斉調査寄付」とご記入ください。  
なお、寄付金は、全国調査のデータ集計や郵送費等、本調査の運営に活用させていただきます。

郵便振替口座

口座名称 全国水環境マップ実行委員会  
口座記号番号 00150-0-514970

ご寄付をいただいた方々(団体または個人のお名前) 2024年9月16日～2025年9月1日

森雄三様、咸泳植様、笠井辰生様、原田武司様、生活クラブ生協寄居支部様、加古敏成様、諫訪祥子様、NPO法人十勝多自然ネット様、長瀬博文様、坂井京子様、福澤るみ様、コバヤシヒロシ様、西川裕美様、法政大学水文地理学研究室様、NPO法人地域環境科学研究所様、NPO法人荒川流域ネットワーク様、青梅長淵丘陵・大荷田の自然を守る会様、加藤功様、長等の川を美しくする会様、アースレンジャー地球環境アカデミー様、神崎川を守るしろい八幡溜の会、田中尚志様、村岡麻衣子様、川口朋久様、ホタルの学校様、びわこの水と地域の環境を守る会様、あわっ子エコクラブ様、さとしょうエコクラブ様、神田川ネットワーク様、阿部孝男様

多くの皆さまからのご寄付、ありがとうございました。

順不同

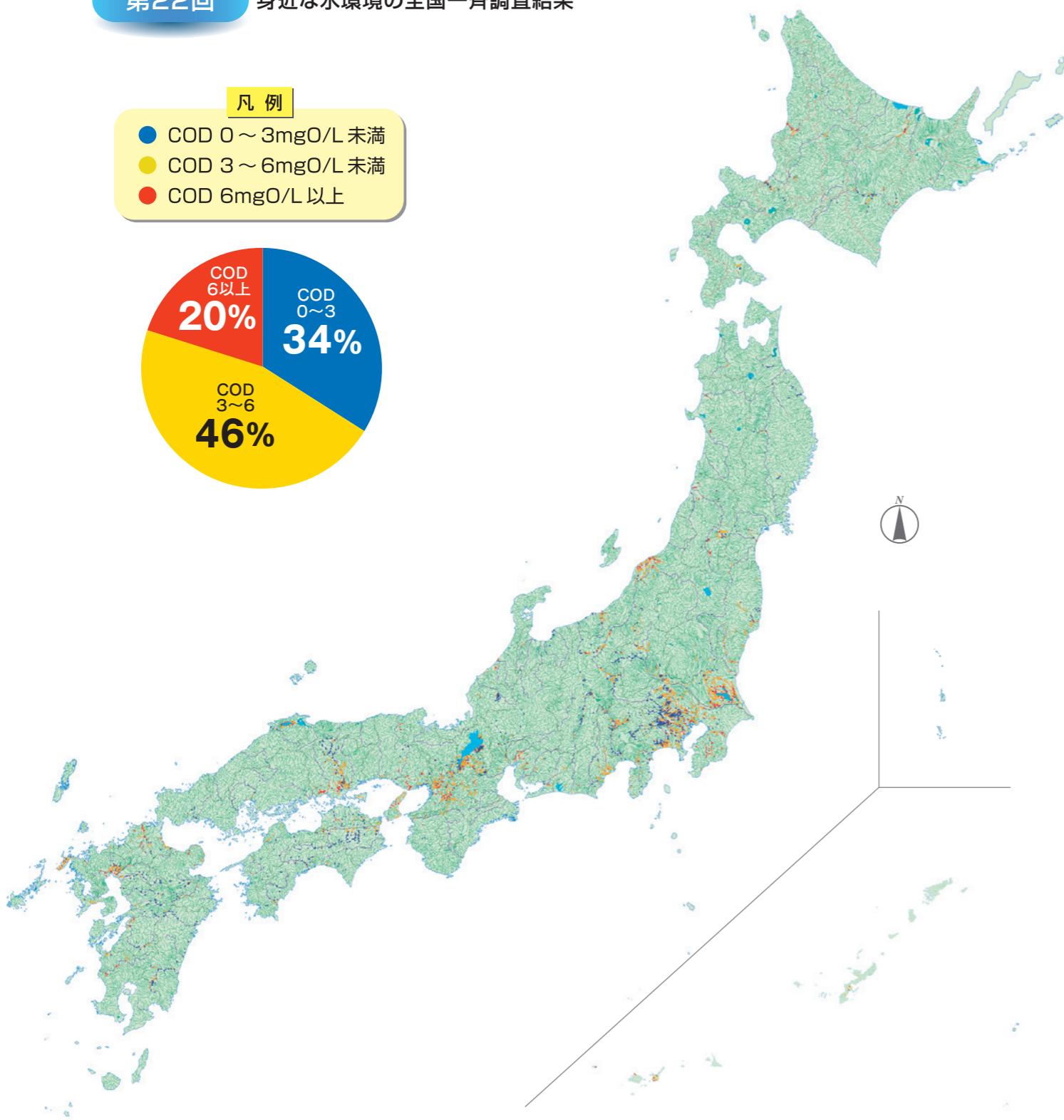
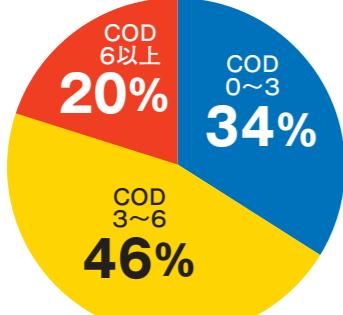
## 全国一斉調査諸データの推移

### ●年別 参加団体及び調査地点数集計結果

都道府県名	2016年		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年		2025年	
	団体	地点																		
1 北海道	25	131	36	435	28	486	26	214	20	389	22	221	26	109	34	177	26	114	28	163
2 青森県	5	17	5	19	7	69	7	60	5	74	6	31	5	15	6	33	4	14	4	14
3 岩手県	2	6	3	13	6	48	3	53	6	70	7	43	6	26	8	32	4	16	6	25
4 宮城県	6	29	6	30	8	65	5	73	6	72	4	28	5	21	6	23	4	11	7	13
5 秋田県	2	5	5	30	6	42	5	34	4	29	3	20	2	6	4	21	2	6	2	6
6 山形県	2	52	2	52	4	114	5	55	4	83	5	117	4	110	3	108	3	54	4	74
7 福島県	8	48	10	69	10	176	9	105	8	114	7	152	9	78	10	94	7	73	10	65
8 茨城県	40	286	37	285	36	321	35	269	30	225	34	237	36	290	36	329	33	288	37	307
9 栃木県	6	11	7	13	8	49	9	43	5	33	5	33	4	11	7	25	6	43	5	13
10 群馬県	9	81	10	114	9	123	9	158	9	150	9	113	8	142	9	169	12	159	11	142
11 埼玉県	64	399	63	441	65	461	68	522	56	407	64	419	66	465	69	467	63	407	60	382
12 千葉県	16	221	19	186	17	209	15	137	15	269	15	117	18	94	14	89	12	55	15	102
13 東京都	100	608	106	634	89	627	88	568	77	508	75	556	74	599	74	523	70	515	73	508
14 神奈川県	37	385	39	470	33	423	34	419	31	413	33	394	32	631	37	425	33	335	30	278
15 新潟県	25	269	23	210	24	222	20	172	18	212	20	262	20	202	18	194	15	182	16	176
16 富山県	6	15	7	38	9	42	7	16	6	32	6	24	7	13	6	15	4	7	5	12
17 石川県	6	12	2	9	4	23	4	34	4	57	7	38	4	16	4	12	5	18	4	16
18 福井県	3	43	7	48	7	64	5	47	6	74	6	52	4	47	10	64	7	58	2	45
19 山梨県	39	196	34	225	33	191	32	150	28	110	30	152	31	148	53	154	37	130	39	153
20 長野県	22	303	29	364	30	366	24	247	25	250	23	183	20	219	29	285	23	195	23	176
21 岐阜県	16	42	18	45	19	76	14	24	8	58	3	27	15	21	15	39	6	44	12	26
22 静岡県	12	27	11	119	10	128	8	114	11	171	10	59	11	44	13	62	10	75	10	112
23 愛知県	26	132	22	114	27	162	22	85	20	57	21	81	30	89	40	110	18	129	24	59
24 三重県	10	48	11	37	6	51	8	23	6	47	5	28	4	14	6	16	8	33	7	35
25 滋賀県	87	547	83	514	81	501	74	494	45	438	76	529	78	472	83	465	59	393	46	372
26 京都府	11	54	11	80	9	59	9	67	13	49	15	56	13	48	16	46	11	40	13	60
27 大阪府	24	188	28	202	31	168	26	158	15	71	29	138	31	136	38	132	29	93	25	101
28 兵庫県	33	136	30	136	33	136	31	171	31	133	34	125	39	157	39	153	33	125	25	100
29 奈良県	10	22	11	24	12	35	10	24	7	15	11	33	9	23	11	21	11	42	10	75
30 和歌山県	5	14	3	34	3	43	4	15	5	41	4	29	2	7	4	11	5	9	6	13
31 鳥取県	2	3	2	6	3	32	2	31	2	17	2	32	1	1	1	11	1	7	1	1
32 島根県</																				

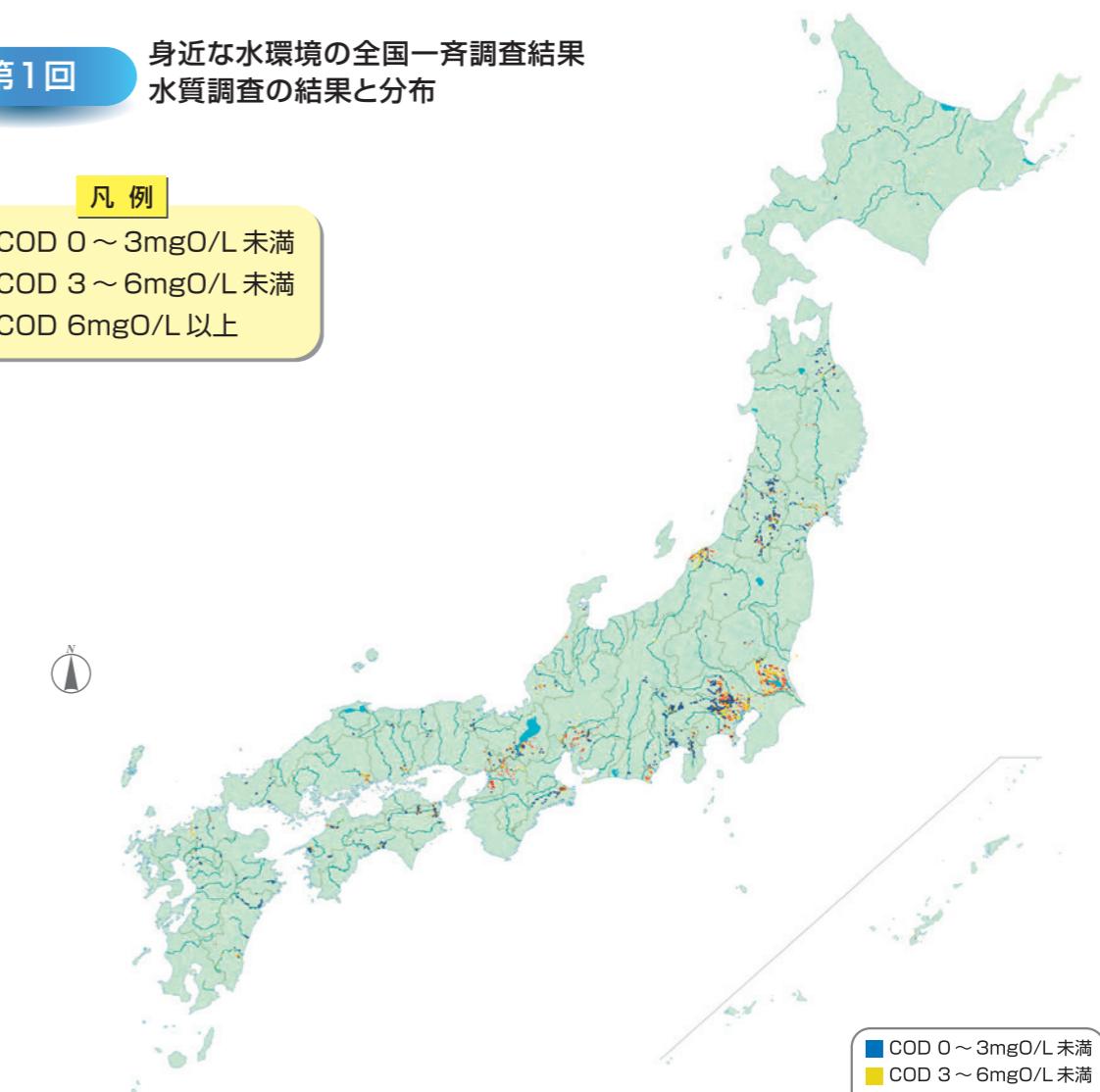
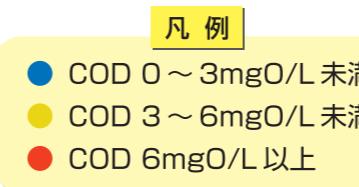
# 2025全国水環境マップ

第22回 身近な水環境の全国一斉調査結果

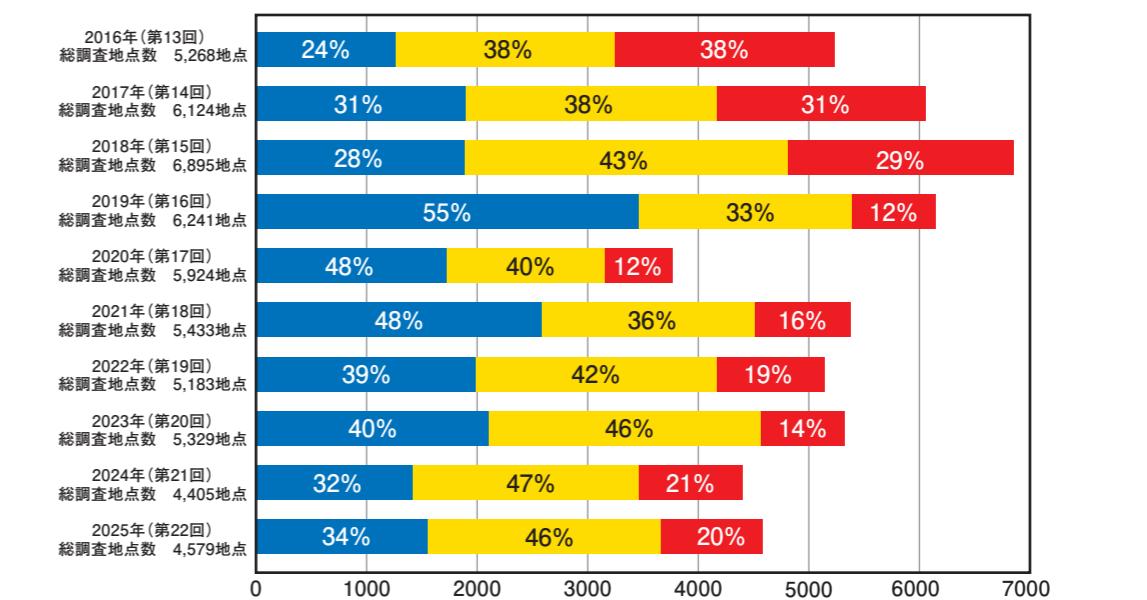


# 2004全国水環境マップ

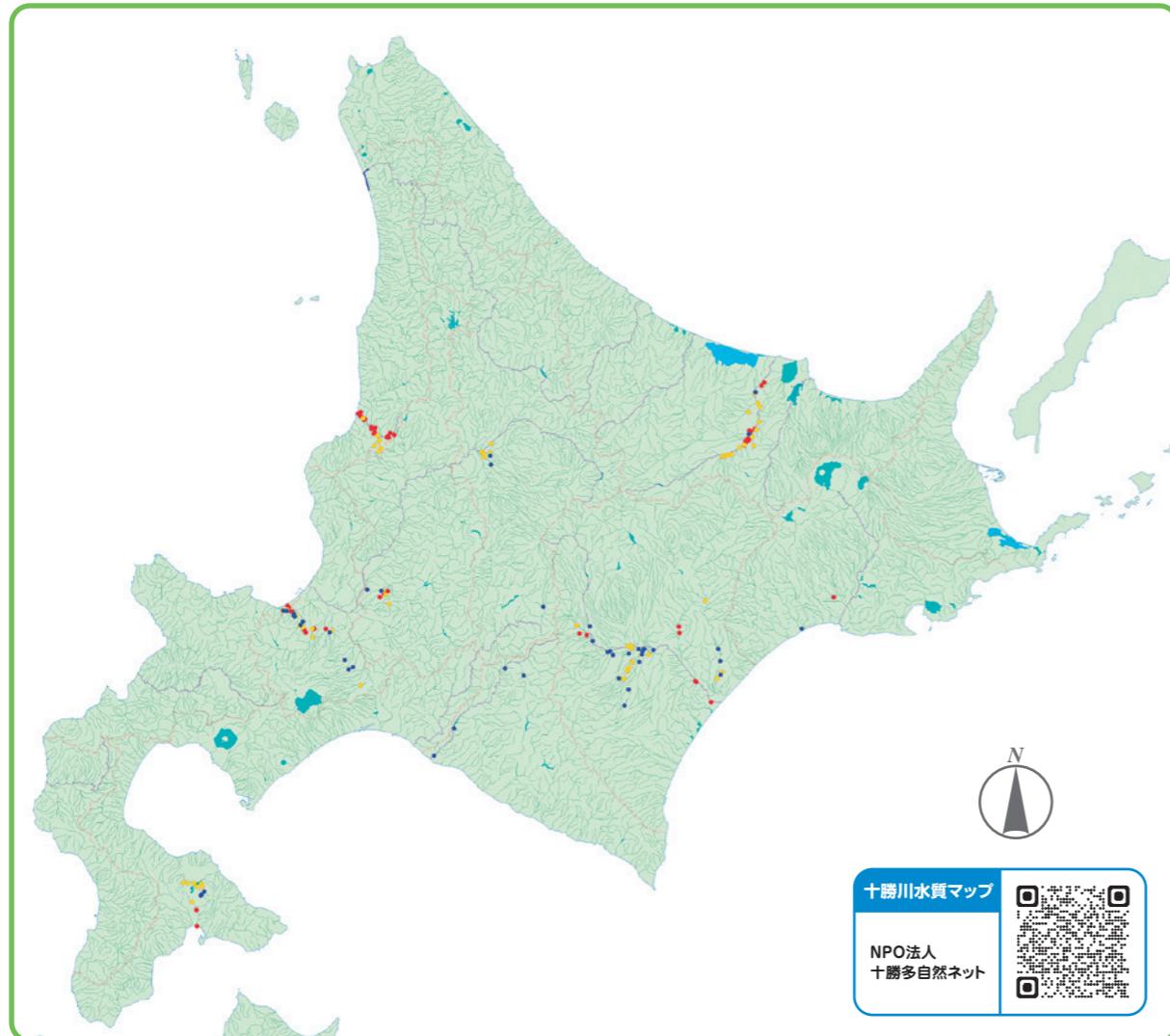
第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果  
水質調査の結果と分布



調査地点数と結果の推移



## 北海道地方

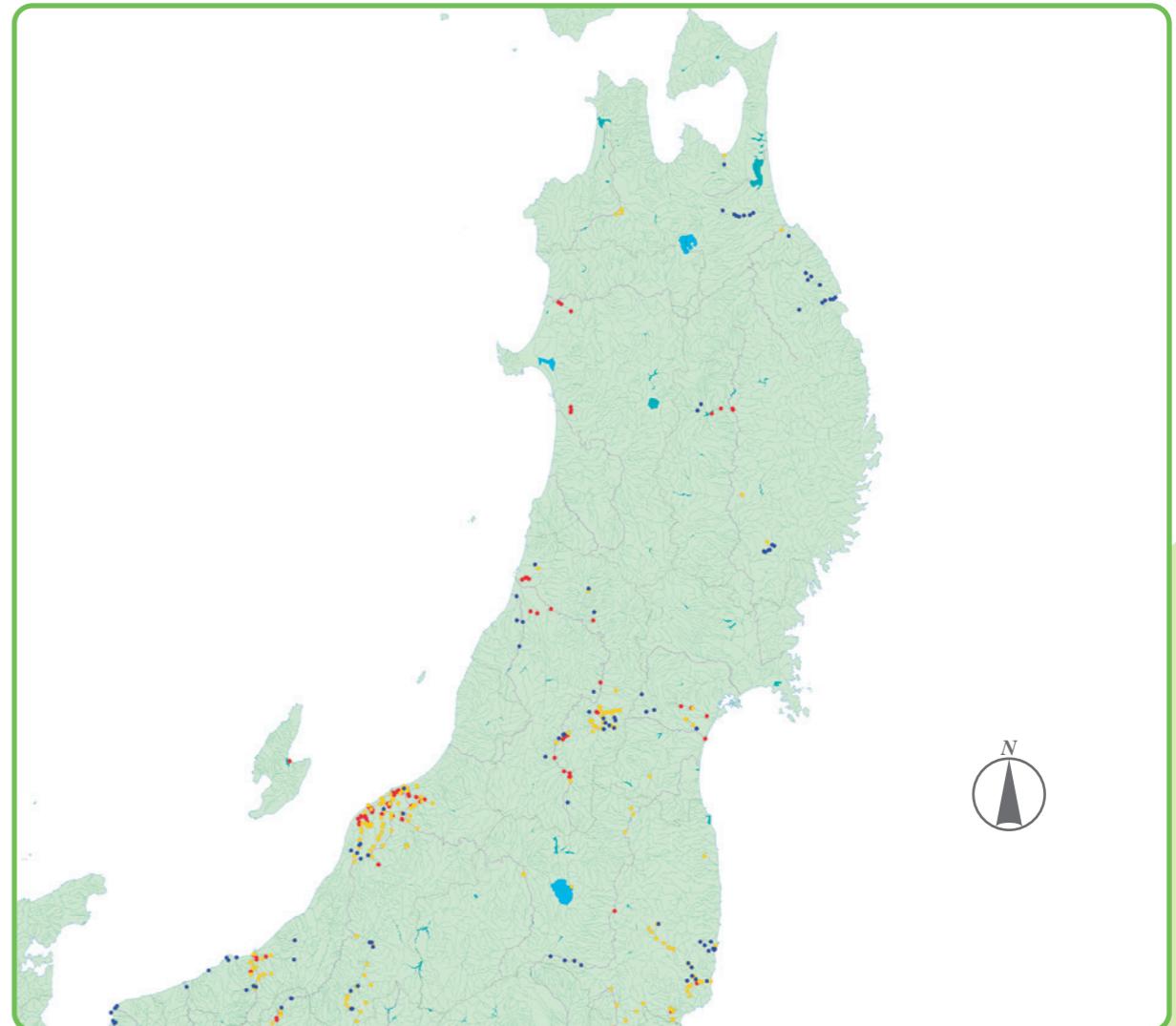


## 参加者からのコメント

- 全地点に共通して、例年よりCODが少し高かったです。前日の一時的な雨の影響と思われます。(調査地のアメダス降水量は0でした)。
- 雨量はそれほど多くない。水量は昨年と同じく少なく、水深は10cm程度。流れは比較的速く、濁りやにおいの無い水。護岸はコンクリートであるが、底の部分は草が茂っている。ごみは見られない。
- 水質調査に参加させていただき自然環境の大切さを改めて感じました。今後も身近な環境に目を向けていきたいと思います。



## 東北地方

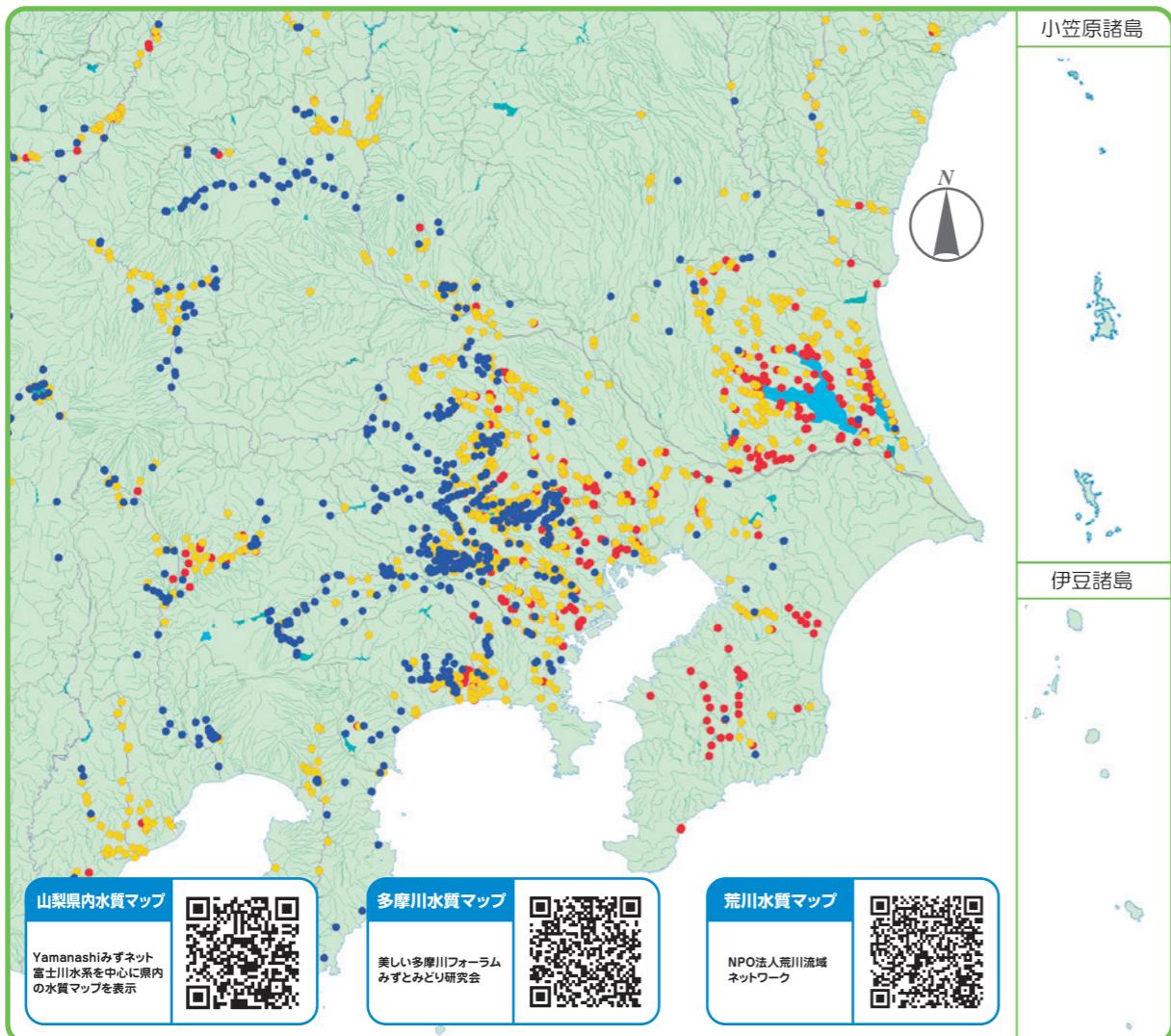


## 参加者からのコメント

- 晴天が続き、渇水期に入って川の流量が減少している。
- より田んぼに近いところなので汚い。(田植えのあとため) 雨のあとなので橋上から採水でき、水量があった。
- 清掃活動に参加した子供たちと一緒に行った。
- 流れ着いたと思われるごみや河川での活動後のごみ散乱。岸一面にオオバコの群生



## 関東地方

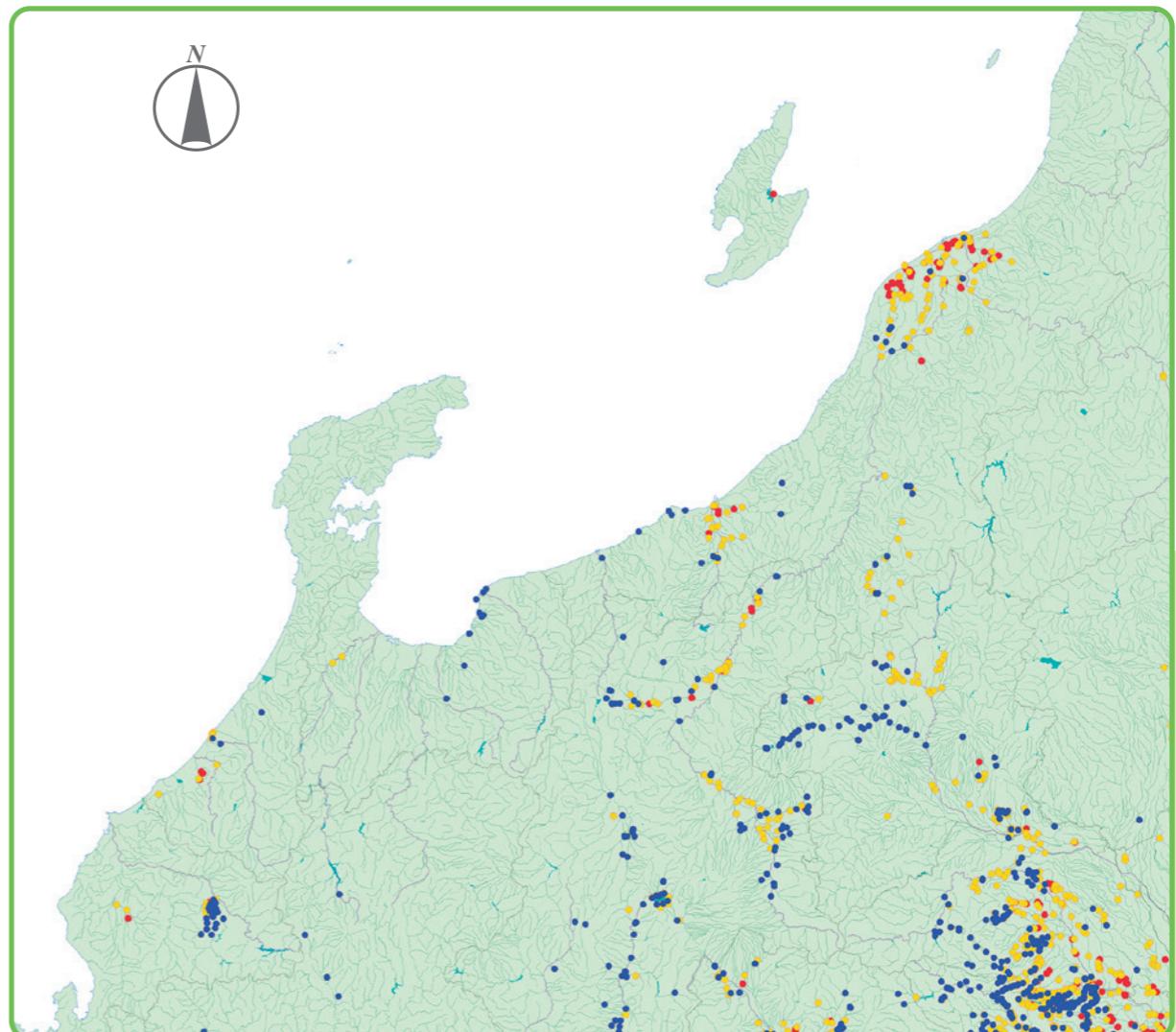


## 参加者からのコメント

- 週の後半は降雨がなかったが、例年と異なり、水の流れが途切れなく、しっかりあった。
- 採水場所の上流に車のバンパー部品、草、プラスチックごみが川の中に捨ててあった。
- 臭いなし。流れのないところにゴミが堆積。橋の新設が完了し鳥が戻ってきている。
- 先日来の降雨により、水面が少し高かった。当日は近辺にいなかったが、アユ釣りが解禁となり上下流に釣り人がいるようになった。



## 北陸地方

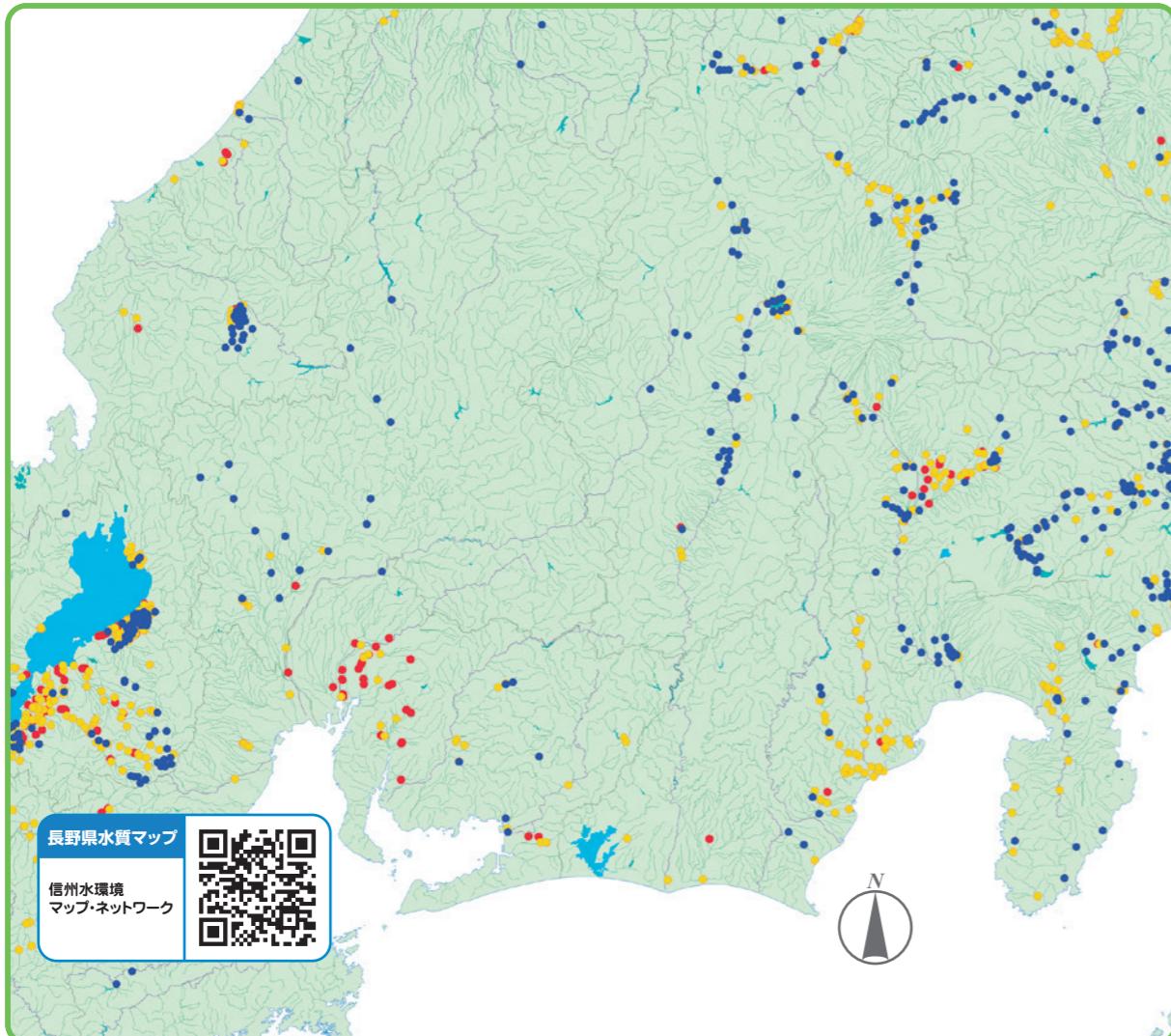


## 参加者からのコメント

- ヒシが無くなりスイレンだけの池になった。
- 葦の中にペットボトルが結構見える。
- 晴れた日が続いたため水はきれいでした。また、採水場所は金沢市民の散策道等になっているためごみなどは見当たらず非常にきれいでした。
- バイカモの花がまだ咲いていない、水量多い、川幅が狭く流れが速い、濁りが少ない。



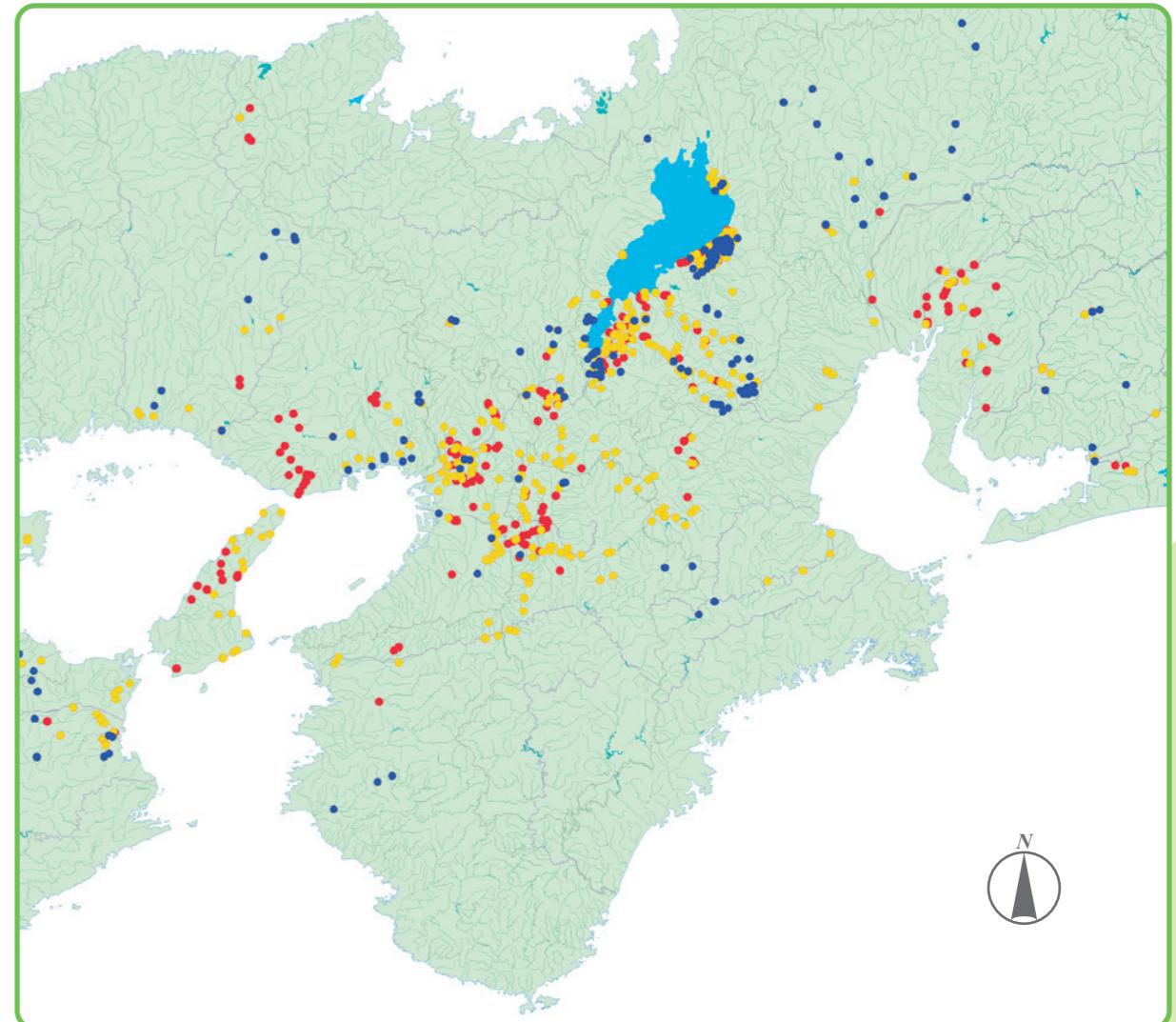
## 中部地方

参加者からの  
コメント

- 釣り客のゴミ多い（缶・ペットボトルごみ）。
- 川底に肥料袋が沈んでいる。
- 水量少ない。流れ緩やか。濁りあり。散乱ごみなし。
- 水量は少ない。流れは遅い。SUPをやっている人がいた。
- ヨシの中でオオヨシキリが鳴いている。



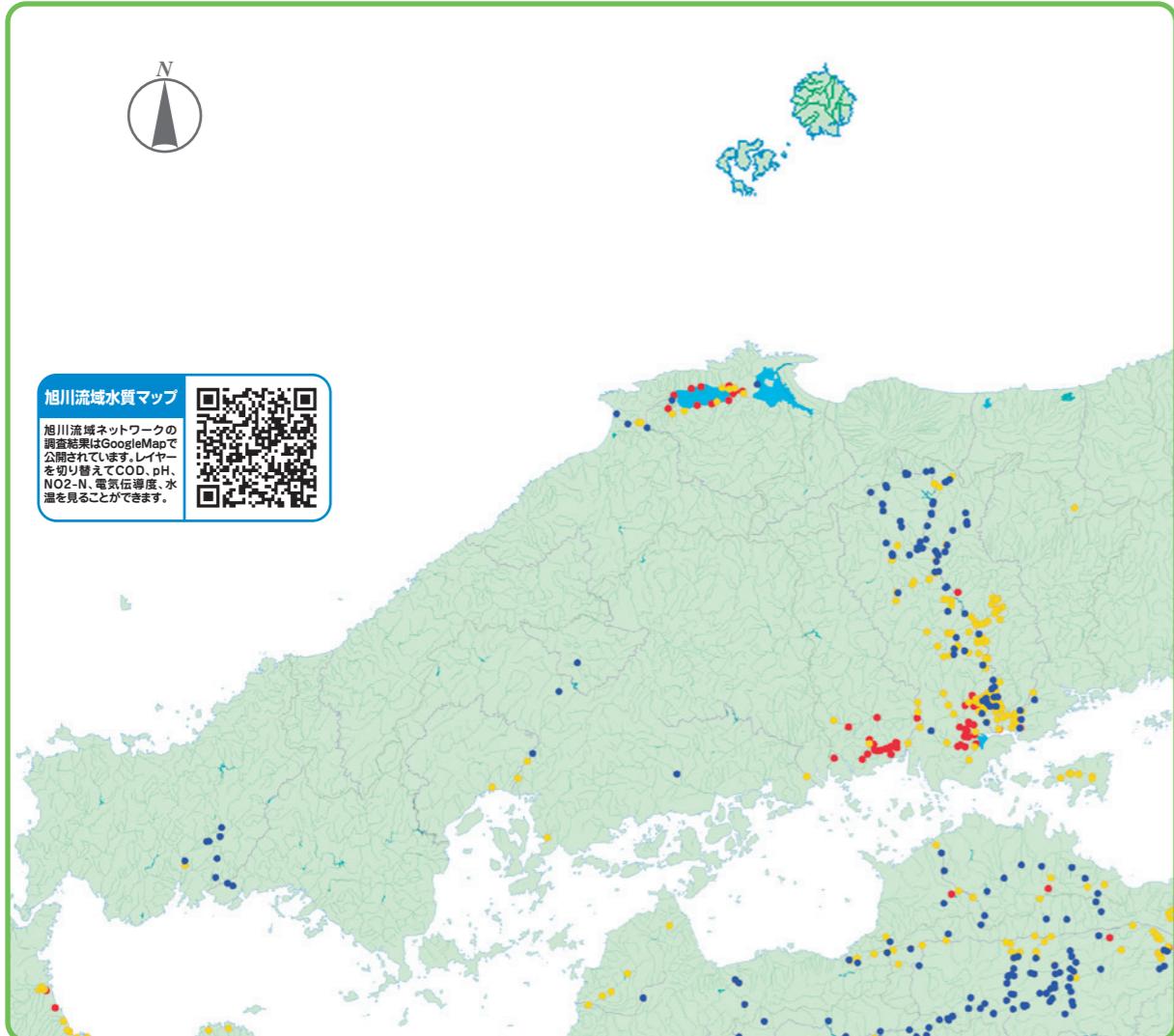
## 近畿地方

参加者からの  
コメント

- 獣害防止柵が厳重になり定点の橋に入れず、200m下流の橋にて採水。
- 草刈がされていて、川面に下りるのが楽であった。
- 下流では堰があり、その上流での測定で流れは速く、濁りはない。水面や水中にもごみはなかった。
- たまにペットボトル流れてくる。濃い深緑色。カモが1羽泳いでいた。
- 近隣の田、池などでコウノトリを見ることがある。田植えの時期であり、濁りがあった。



## 中国地方

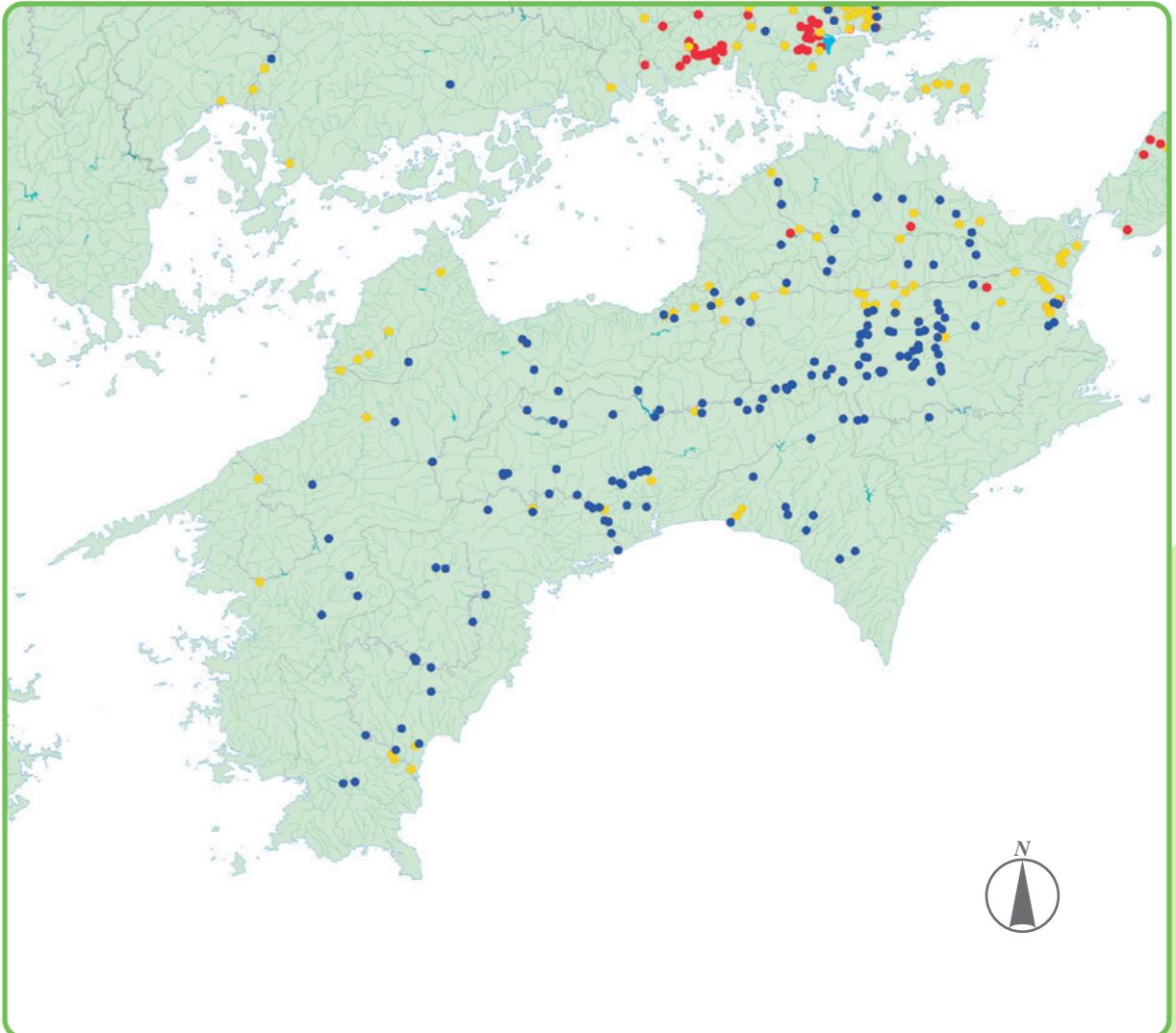


## 参加者からのコメント

- ・水量はあまり変わっていなかった。濁りもほとんどなし。ごみなし。流れはあまりなかった。
- ・流れ緩やか(排水有り)、ゴミが多い(動物の死骸があったが、採水地点より下流のため影響なし)、腐敗臭あり
- ・水草あり、濁っている、プラゴミ、発砲スチロールゴミ
- ・<要検討事項> 安全確保の為、ライフベストの着用・安全第一を考え2人以上の調査



## 四国地方



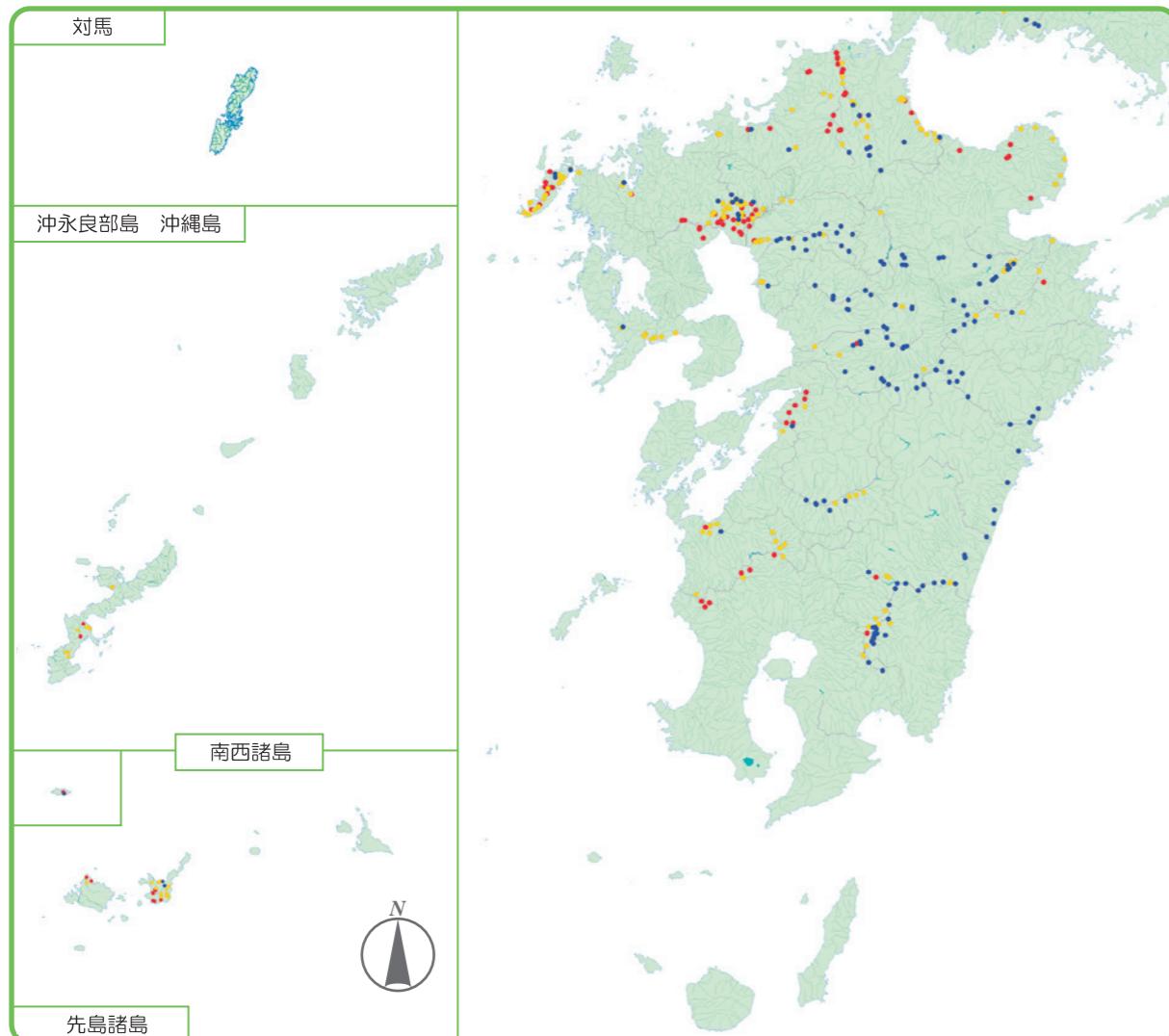
## 参加者からのコメント

- ・濁り水で川底が見えない。二つの川が合流しているところで水がよどんでいる。舟が繋がれている。ウナギ漁の人がある。
- ・雨で少し水が濁っていた。アユ釣りをしていた。
- ・淀んでいる水は少し濁っているが、流れている水はきれい。ゴミは見えない。周囲の山からの湧水多い。



凡 例  
 ● COD 0 ~ 3mgO/L 未満  
 ○ COD 3 ~ 6mgO/L 未満  
 ● COD 6mgO/L 以上

## 九州・沖縄地方



## 参加者からのコメント

- 流れはほとんどなかった。田植えのためかにごりあり。水量はやや多かった。草くず、木くずが認められた。泡も多かった。
- 水量普通、流れあり、濁り極めて高い、ごみ一部にプラごみあり。
- 水量が減っている。山の竹が倒れ枯葉が多く落ちていた
- 水量は多く、流れは良好であった。ごみの散乱もなくキャンプをしている人が多く見られた。
- 前日の午前中豪雨だったため濁りや汚れが残っていた。



## 環境調査後の「おやくそく」！ 使ったパックテスト、どう捨てるのが正解？

近年のプラスチックごみ問題を受け、また参加者からの声もあり、本調査では第21回（2024年）から調査キットの一部であるスポットと小容器の提供を初回参加者のみにして、消耗品以外の器材は継続的に使用していただくことにいたしました。

使用済みのパックテストも試薬は入っていますが容器の部分はプラスチック製品です。本調査では使用済みパックテストの処分方法として、初回参加時にお送りしている詳細マニュアルの23ページに「パックテストCOD(D)を廃棄するとき」として紹介しています。もし、詳細マニュアルを紛失してしまった場合はホームページから閲覧やダウンロードができます。

マニュアル全般 <https://www.japan-mizumap.org/003main/003manual/index.htm>

詳細マニュアル [https://www.japan-mizumap.org/003main/003manual/001manual/parts/07\\_2022/07-13\\_26\\_2022.pdf](https://www.japan-mizumap.org/003main/003manual/001manual/parts/07_2022/07-13_26_2022.pdf)

詳細マニュアルより

パックテストCOD(D)を廃棄するとき

パックテストのチューブはポリエチレン製です。廃棄する場所の自治体の規定に従ってください。ポリエチレンを「燃えるゴミ」として廃棄できる場合は、中の液を出さずにそのまま紙でくるんで焼却処分してください。

## 【最重要】パックテストの正しい捨て方ガイド

パックテストの処分方法は、初回参加時にお送りしているマニュアルにも記載していますが、ここで改めて処分方法を確認しましょう。

使用後のパックテストのチューブはプラスチックでできていますが、使用後のチューブの中には水に溶けた試薬が含まれています。この試薬を川や排水口などに絶対に流してはいけません！

## ① 基本の捨て方(推奨:燃えるごみ)

パックテストのチューブは、中身の溶液ごと、ビニール袋などに入れて「燃えるごみ」として処分することがメーカーから推奨されています。

## ② プラスチック分別が必要な場合(少し手間がかかります)

近年、プラスチックごみの分別が厳しくなり、「燃えるごみ」として出せない自治体が増えています。お住まいの地域で「プラスチックごみ」として分別が必要な場合は、以下の手順で中身の溶液を分ける必要があります。

1. 安全対策: 必ずゴム手袋などの保護具を着用してください。チューブ内の溶液は、強いアルカリ性を示すため、直接肌に触れないように注意が必要です。

2. 溶液の分離: チューブ内の溶液を、ティッシュや新聞紙にしっかりと染み込ませます。

## 3. 分別:

○空になったプラスチックのチューブは、プラスチックごみ

○溶液を染み込ませたティッシュ・新聞紙は、燃えるごみ

4. 注意点: 溶液は絶対に、河川や排水口などには流さないでください。

\*企業や自治体、学校など、組織の活動として調査に参加されている場合、使用後のパックテストは「産業廃棄物」として特別な処理が必要になる可能性がありますのでご注意ください。

# 共立理化学研究所の取り組み

## ◆共立理化学研究所の取り組み ~2025年(第22回全国一斉調査)の試行~

今回の調査において、パックテストのメーカーである共立理化学研究所の取り組みとして使用済みパックテスト回収のトライアルを行いました。一部の実行委員の所属団体の方々にご協力をいただき、その結果をまとめ、実行委員会でも話し合われました。ここでは、調査後の「使用済みパックテストの正しい捨て方」について、改めてご説明します(次頁以降)。なぜ処分方法が大切なのか?それは、私たちが行う環境調査が、最後まで環境にやさしい活動であるためです。

### 本施策の目的

#### プラスチックごみの削減

調査終了後、水質調査キットが自然環境に廃棄物として排出されることを防ぎ、環境負荷を軽減する。

#### 責任ある廃棄物管理

メーカーが使用済みの調査キットを回収し、適切な処理を行うことで持続可能な方法での廃棄物管理を実現する。

#### 環境保護への貢献

水環境調査という社会的意義のある活動において、さらに環境保護に配慮した取り組みを推進する。

### 回収対象

一斉調査で使用されたパックテストCOD(低濃度)のチューブおよびライン

Copyright © 2025 Kyoritsu Chemical-Check Lab., Corp. All Rights Reserved

### 回収キット内容

ポリ瓶

チャック袋

回収方法についての案内

アンケート用紙

着払い伝票

液漏れしにくいポリ瓶を採用、ポリ瓶をさらにチャック袋に入れることで輸送中の液漏れを防ぐ。

ポリ瓶は、発送先のチューブ配布数に応じてサイズ、本数を調整した。

段ボール箱に梱包し送付

### 回収方法

#### ① 使用後のチューブとラインをポリ瓶に入れる。

チューブ内の溶液は、そのまま回収とした。

可能であれば、写真のようにラインをチューブの穴に戻すようお願いした。



#### ② ポリ瓶をチャック袋に入れる。

#### ③ 回収キット送付時の段ボールに梱包し、着払いで横浜本社に発送

宅急便の手配は、調査参加者にお願い(コンビニ持ち込み、集荷など)

### 回収トライアルから見えた参加者の声

共立理化学研究所が行った使用済みパックテストの回収トライアルの目的は、以下の3点です。

- ・プラスチックごみの削減
- ・責任ある廃棄物管理(環境への配慮)
- ・環境保護への貢献

トライアルにご協力いただいた方々へのアンケートでは、以下のような貴重なご意見をいただきました。

- ・「ごみの出し方になんとなく迷いがあったので、回収はありがたかった。」
- ・「中に薬品(試薬)が入っているものを一般ごみで出すのに抵抗があった。」
- ・「これからも回収があると、安心して調査ができる。」
- ・「参加者は環境意識が高いので、処理方法をもっとしっかり周知すればよい。」
- ・「危険な薬品を使っているわけではないと思われるが、自治体側で処分させてほしい」
- ・「環境活動への取り組み、企業努力に感謝します。回収後、どの様に処理されていくのかも説明頂けると参考になり、ありがとうございます。」

多くの参加者が「処分方法に迷い」や「環境への配慮」を感じていることが分かりました。そこで、皆さんのが安心して調査を終えられるよう、正しい処分方法を改めて紹介します。

### まとめ

### 最後まで責任を持って、環境調査を完了させましょう!

パックテストは、調査が終われば「プラスチックごみ」になります。もし、これらが水辺に放置されたり、不適切な方法で捨てられたりすると、私たちが守りたい水環境にさらなる負荷を与えてしまいます。測定して終わりではありません。「ごみの処分までが環境調査」です。皆さんのが安心して、そして正しくパックテストを処分できるよう、私たち実行委員会も、今回見えた課題(回収の必要性や処理方法の周知など)への対応を継続して検討していきます。引き続き、ご協力をお願いいたします。

## 皆勤賞

## 22年参加(結果提出)団体(合計64団体)個人参加1名を含む

北海道	NPO法人十勝多自然ネット	茨城県 錦町	埼玉県 埼玉西部・土と水と空気を守る会	神奈川県 東京都市大学 小堀・成研究室
山形県	美しい山形・最上川フォーラム	茨城県 神栖市	東京都 自由学園	新潟県 NPO法人新潟水辺の会
茨城県	一般社団法人 霞ヶ浦市民協会	茨城県 行方市	東京都 明法中学高等学校 科学部	福井県 大野の水環境ネットワーク
茨城県	国土交通省 霞ヶ浦河川事務所	茨城県 美浦村	埼玉県 NPO法人 荒川流域ネットワーク	山梨県 Yamanashiみずネット
茨城県	石岡市	茨城県 阿見町	東京都 渋川流域市民フォーラム	長野県 讀訪湖クラブ
茨城県	龍ヶ崎市	茨城県 河内町	東京都 八王子ランドマーク研究会	静岡県 三島ゆうすい会
茨城県	牛久市	茨城県 桜川市	東京都 八王子中央地区環境市民会議	滋賀県 認定NPO法人びわこ豊穣の郷
茨城県	つくば市	茨城県 利根町	東京都 八王子市東南部環境市民会議	京都府 相楽環境委員会
茨城県	鹿嶋市	茨城県 土浦市	東京都 稲久保川を考える会	岡山県 旭川流域ネットワーク
茨城県	潮来市	埼玉県 新河岸川水系水環境連絡会	東京都 個人参加	山口県 樹野川観察会
茨城県	稲敷市	東京都 東久留米ボタルを呼びもどす会	東京都 八王子西南地区環境市民会議	徳島県 地蔵橋駅前町内会環境委員会
茨城県	筑西市	埼玉県 和光自然環境を守る会	東京都 (公社)東京都山岳連盟自然保護委員会	徳島県 徳島市市民環境部環境保全課
茨城県	かすみがうら市	東京都 川づり清瀬の会	東京都 羽村・水と緑の会	徳島県 ガールスカウト・徳島第9団
茨城県	茨城町	埼玉県 NPO法人 エコシティ志木	東京都 東京環境工科専門学校 増穂班	徳島県 ガールスカウト・徳島第7団
茨城県	小美玉市	東京都 白子川源流・水辺の会	東京都 林・宮島ファミリーズ	高知県 NPO法人仁淀川お宝探偵団
茨城県	笠間市	埼玉県 生活クラブ生協ソ沢東支部	東京都 国分寺みどりクラブ・国分寺地下水の会	沖縄県 リュウキュウアユを蘇生させる会

10年以上の参加団体(今年度参加をした上記以外の団体)283団体(内個人12名)				
北海道 広畠組田冒険遊びの会	埼玉県 青てら会	神奈川県 水辺愛護会 椿子の川はふるさとの川の会	岐阜県 大野町NPO法人里山会	兵庫県 六方めだか公園
北海道 留萌川を楽しむ会	埼玉県 市ノ川エコクラブ	神奈川県 若葉台連合自治会 生活環境部	岐阜県 老者町生活と環境を考える会	兵庫県 武庫川づくりに流域連携を進める会
北海道 どこでもエコクラブくじら JEC	埼玉県 NPO法人 荒川の自然を守る会	神奈川県 住まいゼロクラブ	静岡県 嶺田市電洋テニススポーツ少年団(静岡県)	兵庫県 白陵中学校・高等学校 生物部
北海道 離別川をよくする市民の会	埼玉県 鶴ヶ島の自然を守る会	神奈川県 アマリーさんち	愛知県 尾張西部生態系ネットワーク T・海部川原	兵庫県 株式会社横水化成品関西 加西工場 SKG
北海道 利根川をきれいにする市民の会	埼玉県 岩谷の環境を考える連絡協議会	神奈川県 利根川再生プロジェクト	愛知県 熊立・庄川きれいにする会	奈良県 日本陸水学会近畿支部会
北海道 十勝川シャンモチ守る会	埼玉県 生活クラブ生協寄居支部	神奈川県 令和川水系流域ネットワーク	愛知県 NPO法人 環境研究所豊明	奈良県 特定非営利活動法人「関西環境とインフラを考える会」
北海道 北海道南水産高等学校	埼玉県 東洋大学	神奈川県 大井ちづはるコミュニティ研究会	愛知県 あしよらぐ	奈良県 株式会社 横水化成品天理 SKG
北海道 パナソニック建設エンジニアリング労働組合	埼玉県 生活クラブ生協鶴ヶ島支部	新潟県 NPO法人ねっこわく・福島潟	愛知県 天王川の校舎	福島県 日高川町水道協会
北海道 桑水化成品北海道 SKG	埼玉県 岩手ノイグリの森水辺ボーターズ	新潟県 NPO法人朝倉市青木ヶ原クラブ	愛知県 水と湖流域コエフ	福島県 水と湖流域コエフ
北海道 株式会社 横水化成品北海道 路工場 SKG	埼玉県 小糸の会	新潟県 新潟市立大学講座	愛知県 嶺田・坂川生活を考える会	同山県 さしこうコラブ JEC
北海道 十勝川中流域民協会会議	埼玉県 NPO法人やま環境市民ネットワーク	新潟県 新潟市西蒲原地域改修区	愛知県 豊川リバーオーク委員会	同山県 横水化成品天理 関山製造部 SKG
北海道 北海道ナビゲーション・アーリー会	埼玉県 白岡町藍光会水辺の親睦会	新潟県 跡後新川まおこしの会	愛知県 みなと塾	同山県 両毛市京山地区ESD-SDGs推進協議会
青森県 HEP21エコクラブ JEC	埼玉県 岐阜市水系in滑川町	新潟県 水辺を創る会	愛知県 菊谷市民会議	広島県 株式会社 横水化成品西部 三原工場 SKG
青森県 NPO法人水辺の学校まち	埼玉県 ふきあげ環境オーラム	新潟県 エコクラブ サンダーバード	滋賀県 NPO法人 蒲生野考現俱楽部	広島県 株式会社 横水化成品西部 北広島工場 SKG
青森県 奥入瀬川クリーン対策協議会	埼玉県 北川のづくり協議会	新潟県 オリジナルプロジェクト	滋賀県 NPO法人義田川リバープ隊	広島県 パナソニック松愛会 西中国支部 H.O.
岩手県 岩石を児童が「かべてくばー」	埼玉県 おおむねを守る会	新潟県 いたずら里研究会	滋賀県 野川・朝倉の親睦会	山口県 パナソニック松愛会西中國支部 Y.H.
宮城県 「なづぎ」環境とくらしネットワーク(MELON) 水	千葉県 カヌークラブかわせみ	新潟県 日本人会議会議	滋賀県 湖岸流域環境保全協議会	山口県 水の自遊人 しんすいんたい アカザ隊
秋田県 部会あきた緑の少年団	千葉県 心くエコクラブ JEC	富山県 小矢部川に学ぶ会	滋賀県 草原塾	秋田県 横水化成品西部防府工場 SKG
秋田県 能代こども環境探偵団	千葉県 二重川・親しみの会	富山県 みなくわ地元議員	滋賀県 佐渡市役所	福島県 オリジンズクラブ
山形県 NPO法人水辺の学校まち	千葉県 水辺の学校まち	新潟県 横水化成品部 佐藤工場 SKG	富山県 富山寺町の清流を愛する会	福島県 株式会社横水化成品西部専門工場 SKG
青森県 奥入瀬川クリーン対策協議会	埼玉県 北川のづくり協議会	新潟県 オリジナルプロジェクト	滋賀県 NPO法人環境を考える会	福島県 パナソニック松愛会 遠山寺自然の森博物館会
福島県 岩石を児童が「かべてくばー」	埼玉県 おおむねを守る会	新潟県 いたずら里研究会	滋賀県 NPO法人義田川リバープ隊	香川県 土器川生物研究会
宮城県 「なづぎ」環境とくらしネットワーク(MELON) 水	千葉県 カヌークラブかわせみ	新潟県 日本人会議会議	滋賀県 野川・朝倉の親睦会	香川県 カセミ
秋田県 部会あきた緑の少年団	千葉県 心くエコクラブ JEC	富山県 富士川アッパー六郷地区	滋賀県 湖岸環境保全協議会	高知県 PHO会員組合 本部
秋田県 能代こども環境探偵団	千葉県 二重川・親しみの会	富山県 野川を愛する会	滋賀県 施業川を愛する会	高知県 公益財団法人四十万川財團
山形県 鶴ヶ崎市民環境会議 水・大気環境部会	千葉県 水辺の学校まち	新潟県 横水化成品部 佐藤工場 SKG	滋賀県 湖岸環境保全協議会	高知県 NPO法人YASU洋の駅クラブ
福島県 夢はるこひ	千葉県 南浦積水工業株式会社 SKG	石川県 「美しい自然クラブ」	滋賀県 NPO法人環境保全指揮官会議	高知県 横山自然の森博物館会
福島県 西郷くらしの会	東京都 多摩市水辺の学校	千葉県 まちづくり時習塾	滋賀県 NPO法人琵琶湖ネット津津	香川県 土器川生物研究会
福島県 阿賀川・川の会	東京都 日野川環境共創部 緑と清流課	千葉県 富士川アッパー六郷地区	滋賀県 愛媛県 湖岸環境保全協議会	高知県 PHO会員組合 本部
福島県 夏井川流域の会	東京都 大王子市西部地区環境市民会議	千葉県 富士川ファンクラブ・南部地区	滋賀県 施業川を愛する会	高知県 公益財団法人四十万川財團
福島県 福島県立原町高等学校 教科学部	東京都 大王子市西部地区環境市民会議	千葉県 富士川アッパー六郷地区	滋賀県 野川を愛する会	高知県 NPO法人YASU洋の駅クラブ
茨城県 鶴ヶ崎市民環境会議 水・大気環境部会	東京都 公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会	千葉県 富士川アッパー六郷地区	滋賀県 甲南高校 バイオとかく系 with 桐川と廻し会	高知県 横山自然の森博物館会
茨城県 岩手山岳連峰自然保護委員会	東京都 中からんきうの会の会	千葉県 みねね・かわせみ	滋賀県 滋賀県企業会水口淨水場	高知県 田の口の環境を考える会
茨城県 横水化成品開発会 SKG	東京都 横水辺の学校	新潟県 桐田(橋)グループ	滋賀県 東近江環境保全ネットワーク	高知県 横水の会
茨城県 横水化成品開発会 下館環境グループ SKG	東京都 おおむねを楽しむ会	千葉県 みずすし	滋賀県 八幡橋を守る会	高知県 福岡再生の会・平五太
茨城県 沢瀬保溝セカタ・パートナーグループ	東京都 神田川ネットワーク	千葉県 富士川アッパー六郷地区	滋賀県 横水フォーラム湖東	福岡県 NPO法人遠賀川流域住民の会
茨城県 横水化成品品販売会	東京都 北水辺の会	千葉県 小幡フジドリ	滋賀県 佐渡市環境保全指導員連絡会議	福岡県 田のむらさと川づくり交流会
茨城県 パナソニック松愛会木工部	東京都 江戸川・生活者ネットワーク	千葉県 ハルカ野鳥のラブ	滋賀県 佐渡川・遠江川・木曽川・木の会実行委員会	福岡県 未来へいただフクダ実行委員会
群馬県 NPO法人新田環境らいの会	埼玉県 川口市立西中学校科学技術部	千葉県 計画団チーム	滋賀県 人と自然を守る会	福岡県 番ひでのりの会
群馬県 横水化成品販売会 SKG	埼玉県 國際環境アートムーヴ川口	千葉県 富士川アッパー六郷地区	滋賀県 滋賀県南郷の川を愛しくする会	福岡県 岩手川の楽校
群馬県 柏川環境改善会	東京都 東京自動車大学校ライフの会	千葉県 富士川ファンクラブ・三浦地区	滋賀県 天神川を愛しくする会	福岡県 矢吹川つなぐ会
群馬県 前橋育英高校 科学部	東京都 実登会	千葉県 山田フジドリ	滋賀県 長野の川を楽しむ会	福岡県 横水化成品九州 豊前工場 SKG
東京都 北川かっぱの会	東京都 美しい多摩川フォーラム	千葉県 イデック	滋賀県 三田川をきれいにする会	福岡県 パナソニック松愛会九州支部 H.N.
埼玉県 白子川流域の環境をよくする会	東京都 中野・生活者ネットワーク	千葉県 国土交通省甲府河川国道事務所 富士川下流支所	滋賀県 相模川を美化する会	佐賀県 佐賀会社 ミジタ
東京都 東久留米ほどじょうを守る会	東京都 政法大学水文地理学研究室	千葉県 富士川中流出張所	滋賀県 長浜市びわ水環境	佐賀県 NPO法人技術交流フォーラム
埼玉県 所沢市高松文化部	東京都 地域活動団体 境川緑のルネッサンス	千葉県 生活クラブ生活協同組合(山梨)	滋賀県 Panasonic松愛会滋賀支店	佐賀県 やしも塾
埼玉県 不老川流域づくりくみの会	東京都 ハッピーストックの会	長野県 下諏訪町湖面清掃浄化推進連絡協議会	滋賀県 横水化成品滋賀 SKG	長崎県 リーフグリーンクラブ2 (JEC)
埼玉県 生活クラブ生協奥山支部	東京都 丹野市民環境大学OB会・上野	長野県 千波川水辺の研究会	滋賀県 下里エコクラブ JEC	長崎県 下里エコクラブ JEC
東京都 NPO法人 空瓶川に清流を取り戻す会	東京都 丹野市民環境大学OB会・坂井	長野県 開拓湖クラブ	滋賀県 丹波市佐治川河川環境研究会	長崎県 丹波市佐治川河川環境研究会
埼玉県 柳瀬川をきれいにする会	東京都 丹野市民環境大学OB会・原田	長野県 戸隠地質化博物館	滋賀県 西京極こどもエコクラブ	長崎県 石垣島エコツーリズム協会
東京都 空堀川を考える会	東京都 東久留米水辺の生きもの研究会	長野県 鷺自然調査研究会	滋賀県 NPO法人大阪府環境委員会	長崎県 株式会社 横水化成品西部 熊本工場 SKG
埼玉県 黒目川に親しむ会	神奈川県 桜井川・相模川流域協議会	長野県 鷺井沢水楽会	滋賀県 アジアアレンズ	大分県 大分県環境委員会
埼玉県 あさくら環境会議	神奈川県 さむわエコネット	長野県 鷺井沢水楽会	滋賀県 ガールスカウト大阪府第21回	宮崎県 NPO法人大淀川流域ネットワーク
埼玉県 NPO法人 和光・鏡と湧き水の会	神奈川県 常京科学大学	長野県 ニコラクラブ	滋賀県 ガールスカウト大阪府第21回	宮崎県 NPO法人大淀川流域ネットワーク
東京都 クラブ	神奈川県 駒寄川と緑と風の会	長野県 ニコラクラブ	滋賀県 オアシス	アマヤマネコクラブ
埼玉県 NPO法人 海苔の会	神奈川県 CCAたかつ	長野県 クリーンヒルズの会	滋賀県 丹波市佐治川河川環境研究会	アマヤマネコクラブ
東京都 腹くらいの楽園	神奈川県 國土交通省 開発整備局 滝浜川事務所	長野県 大阪府	滋賀県 丹波市佐治川河川環境研究会	アマヤマネコクラブ
埼玉県 川の博物館ボンティアの会	神奈川県 まちかわと緑の会	長野県 信州大学環境学生委員会	滋賀県 丹波市佐治川河川環境研究会	アマヤマネコクラブ
埼玉県 生活クラブ生協有志	神奈川県 NPO法人長岡川環境リサイクル協会	長野県 信州大学環境学生委員会	滋賀県 丹波市佐治川河川環境研究会	アマヤマネコクラブ
埼玉県 生活クラブ生				

# 身边な水環境を調べよう!

第23回「身边な水環境の全国一斉調査」参加のお誘い

**風間 ふたば** 全国水環境マップ実行委員会 実行委員長

日頃、親しんでいる身边な水環境は簡単な方法で調べることができます。

「身边な水環境の全国一斉調査」は市民グループと河川管理者などと連携し、毎年6月5日の「環境の日(世界環境デー)」に近い日曜日に実施しています。本調査は、統一した調査マニュアルと簡単なキット(無償で配布)を用い、全国で一斉に行います。

調査結果をわかりやすいマップとして表現することで、身边な水環境の様子が良くわかります。この調査を通して水環境に関する市民の理解と関心が、いっそう高まるこども期待されます。

詳細な調査結果は、本調査専用ホームページ(URL <https://www.japan-mizumap.org/>)や国土交通省水管・国土保全局のホームページ ([https://www.mlit.go.jp/river/toukei\\_chousa/kankyo/kankyou/research/index.html](https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/research/index.html))で公表されています。

2026年6月7日(日)を統一調査日として、第23回の全国一斉調査の実施を予定しています。  
後日、今回ご参加いただいたみなさんに実施のご案内をお送りしますのでよろしくお願いいたします。

**測定項目** 気温、水温、COD、その他

**測定方法** 調査マニュアル、調査キットに基づき測定(※1)

**参加申込と締め切り** 専用ホームページダウンロードまたはP.22の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の連絡事務局(みずとみどり研究会)に、**2026年3月10日(火)**までにお知らせください。

なお、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。  
参加申込された団体はホームページで公表させていただきます。

人と地球の、  
美しい未来へ。

私たち積水化成品工業がめざすのは、環境と共生  
しながら、先端素材の技術を未来に生かすこと。

人と地球が調和する持続可能な社会の実現に  
向けて前進していきます。

積水化成品工業株式会社

大阪本社：大阪市北区西天満2-4-4 堂島関電ビル  
東京本部：東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビルディング

[www.sekisukasei.com](http://www.sekisukasei.com)

## 協賛企業等を募集しています

- 協賛いただいた企業、団体につきまして広告を結果概要パンフレットに掲載させていただきます。
- 当結果概要パンフレットは身边な水環境の全国一斉調査に参加した皆さまや関連団体などに毎年配布しています。
- 詳しくは、全国水環境マップ実行委員会事務局までご連絡下さい。

## 全国一斉調査 お申し込み先

FAX:042-327-3169 E-mail:mizutomidoriken@ybb.ne.jp

## 第23回 身近な水環境の全国一斉調査 参加申し込み用紙

参加申し込み用紙はホームページ(<https://www.japan-mizumap.org/>)からもダウンロードできます。 [身边的水検索](#)

2026年3月10日(火)までに必ずE-mailまたはFAXでお知らせ下さい。

■これまでに全国一斉調査に参加したことはありますか

過去の参加あり

初めて

■参加グループ名

以前の全国一斉調査に参加された方でグループ名の変更がある場合には昨年の登録名もお書き下さい。団体名が異なると経年データとして結果が反映されません。

参加グループ名(個人参加の場合は参加者氏名、ただし個人情報保護の関係で個人名の公表は致しません)

変更前のグループ名

■参加グループの連絡責任者 (個人参加の場合はご記入の必要はありません)

■連絡先 (グループの場合は連絡責任者の連絡先、個人の場合はご自宅など)住所、電話、FAX、E-mail(特にE-mailアドレスははつきりとお書き下さい・携帯電話のE-mailは不可)

住所

電話

FAX

E-mail

■調査予定地点名 河川名など 例)○○県 ○○川、××用水路、△△池。

■河川以外の水路・水辺等で調査を実施しますか

河川以外の水路・水辺(農業用水路、ため池等)で行う調査地点がある場合には、原則として水路・水辺等の管理者や所有者の許可を得ることが必要となります。「はい」とお答えの方は別添「河川以外の調査了解調査票」にご記入の上、事務局に申し込み用紙と一緒にご提出ください。(専用HP上の詳細マニュアルの注意事項を参照してください。)

はい

いいえ

■調査予定日 ただし、結果の返送締め切り日(6月末日)より前に実施してください。

6月7日に実施する

6月7日に実施できない【その場合の予定

月 日

■調査予定地点数 水質調査キットの事前準備のため、必ずお書きください。

地 点 (水質調査キットの事前準備のため、必ずお書きください)

■参加申し込みの確認は3月17日以降ホームページ(<https://www.japan-mizumap.org/>)でできます。

※調査の風景などの写真送付にご協力ください。お送りいただいた写真はパンフレットやホームページに使用させていただきます。

### 事務局からのお願い

申込後、お手元に水質調査キット類が届きましたら、必ず内容をご確認ください。

※1 調査キットは、参加申込者に2026年5月頃に配布予定です。

問合せ先

○全国水環境マップ実行委員会 事務局

みずとみどり研究会気付(申込・問合せ)

〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202

TEL/FAX:042-327-3169 E-mail:mizutomidoriken@ybb.ne.jp